

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立長吉小学校
学校長名	高田 一夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
 - ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉小学校では、第6学年 90名

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

〔国語〕平均正答率を見ると、大阪市に比べ、A問題では6ポイント低く、B問題では3ポイント低くなっている。領域別にみると、「読むこと」の領域では大阪市平均を上回っている。平均無解答率については、A問題では高いものの、B問題では全国平均よりも低くなっている。

〔算数〕平均正答率は、A問題、B問題とも、大阪市平均より3ポイント低くなっている。全体的にどの領域でも大阪市平均よりも低い。平均無解答率についてはほぼ全国平均と比べても差が小さい。

〔理科〕平均正答率は、大阪市平均と比べ1ポイントの差であり、「物質」領域では大阪市平均を上回っている。「地球」領域でも差が小さい。平均無解答率は全国平均よりも低くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕一昨年度は校内研修で国語をテーマに主体的・対話的で深い学びを意識し、論理的に文章を読む力の育成をめざした取り組みを進めていた成果があり、「読む力」が育ってきていると考えられる。また、B問題の文章で回答する問題についても無解答率は低く、正答率は大阪市平均を上回り、全国平均に近く健闘している。しかし、4問あった漢字の問題では、正答率が低く基礎的・基本的な学習を見直す必要がある。

〔算数〕A問題では、円周率を求める正しい式や数直線といった解答では全国平均を上回っている。学校力UPベース事業を実施し、算数科での少人数学習を進めてきた成果が表れていると考える。しかし、空間認識や応用して考える問題に関しては課題がみられ、より思考力・判断力・表現力を育てる学習の工夫が必要である。

〔理科〕知識を問う問題では、全国平均を上回る力を発揮している。しかし、活用を問う問題では、誤答が目立ち、より問題解決を行う学習を必要としている。

質問紙調査より

「朝食を毎日食べていますか」への肯定的回答が大阪市平均を上回っており、協力を得られている家庭も多い。「家で学校の宿題をしていますか」「学校のきまりを守っていますか」には肯定的に答える子どもが多く、学校での指導・家庭への啓発の成果が実っている。「自分にはよいところがあると思いますか」の問いには否定的な回答が目立つが、「人の役に立ちたいと思いますか」の問いには肯定的な回答が多く、将来への希望をもっていることがわかる。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の問いに肯定的に回答できる子どもを増やし、勉強が大切・好きと答える子どもたちが増えるような取り組みが必要である。

今後の取組(アクションプラン)

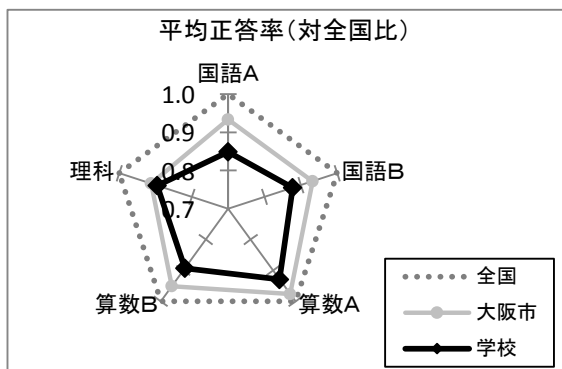
昨年度から研究教科として算数科の取り組みを進め、長吉小学校としてのスタンダードな授業を構築してきた。一人ひとりの子どもの主体的な学習を保障し、集団で深めてきた中で、学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う子どもも多い。各教科の学習に対してもより意欲的に問題を解決していこうとする態度が育ってきていると考える。国語科においても基礎・基本となる漢字の力を定着することができるよう取り組みを工夫していく必要がある。

朝食をとって登校する家庭は多い地域である。しかし家庭による差は大きい。家庭・地域との連携をさらに深め、協力をしあえるように繰り返し働きかけていくことが大切である。

【 全体の概要 】

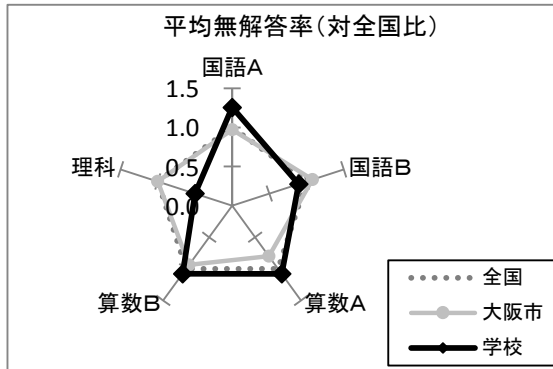
平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	60	48	59	46	54
大阪市	66	51	62	49	55
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3



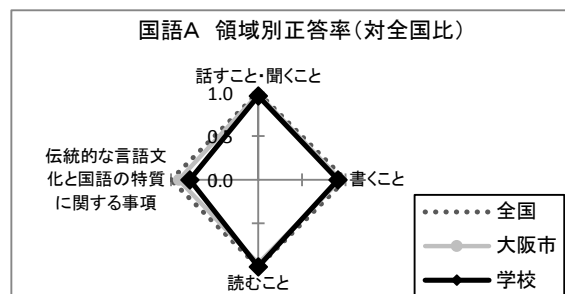
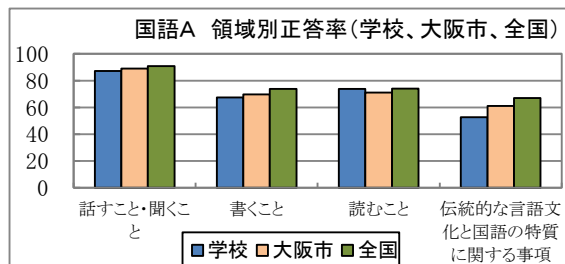
平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
学校	4.4	3.4	2.7	8.5	0.6
大阪市	3.4	4.1	2.0	7.4	1.2
全国	3.5	3.8	2.5	7.9	1.2

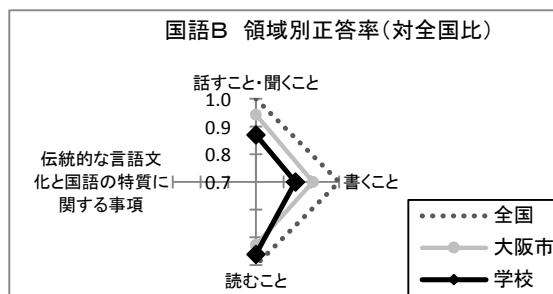
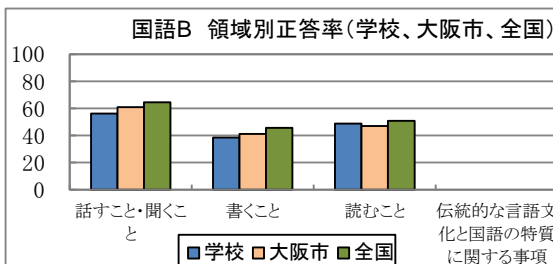


【 国 語 】

A 問 題		対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指 導要領 の 領域等	話すこと・聞くこと	1	87.2	88.9	90.8
	書くこと	1	67.4	69.6	73.8
	読むこと	2	73.8	71.0	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	52.6	61.1	67.0

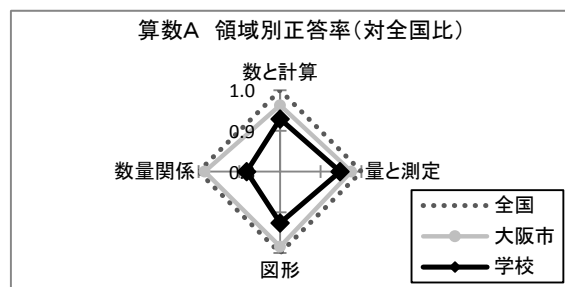
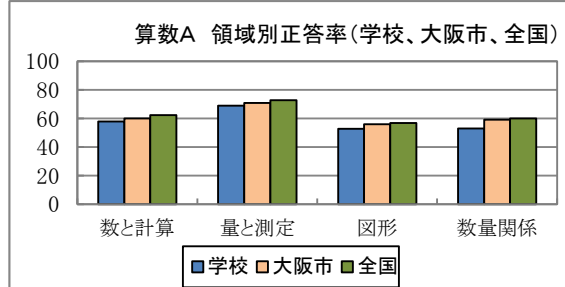


B 問 題		対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指 導要領 の 領域等	話すこと・聞くこと	3	56.2	60.9	64.6
	書くこと	5	38.4	41.3	45.6
	読むこと	2	48.8	47.1	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—

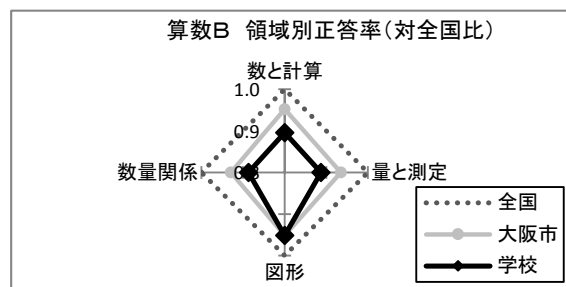
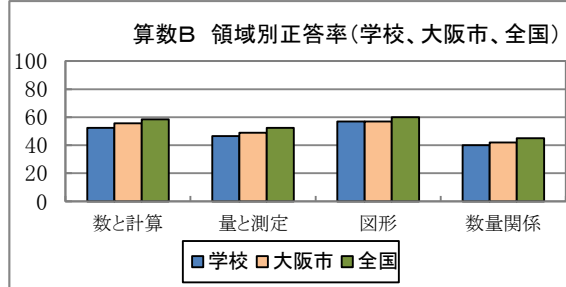


【算数】

A 問題		対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領 の 領域等	数と計算	5	57.9	60.0	62.3
	量と測定	4	68.9	70.9	72.7
	図形	3	52.7	56.0	56.9
	数量関係	5	53.0	59.2	60.1

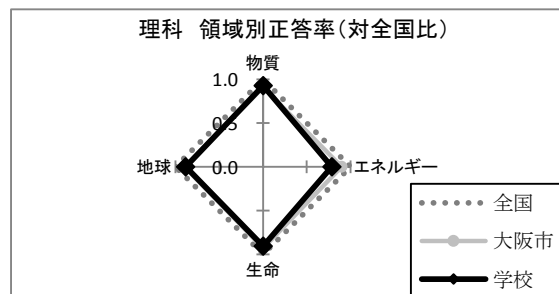
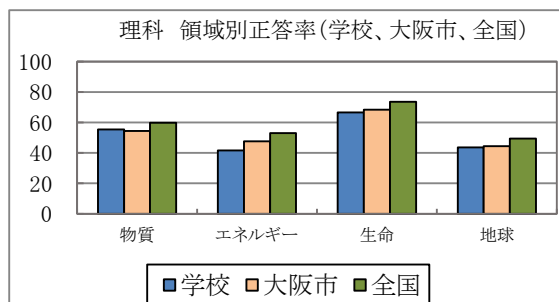


B 問題		対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領 の 領域等	数と計算	6	52.3	55.6	58.4
	量と測定	4	46.5	49.0	52.4
	図形	2	57.0	57.0	59.9
	数量関係	5	40.0	41.9	45.1



【理科】

学習指導要領の領域等		対象設問 数(問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A区分	物質	4	55.5	54.4	59.8
	エネルギー	4	41.7	47.7	53.1
B区分	生命	4	66.7	68.4	73.6
	地球	6	43.7	44.4	49.5



児童質問紙より

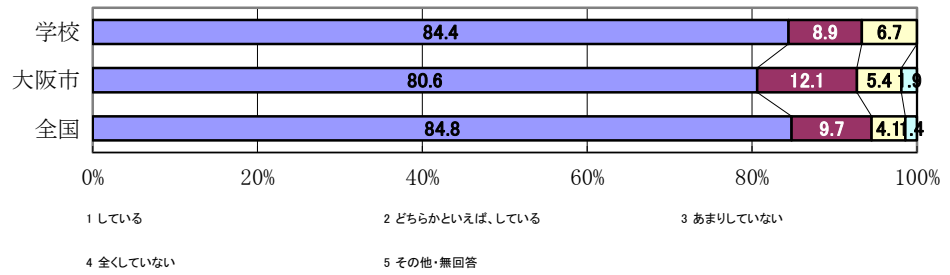
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

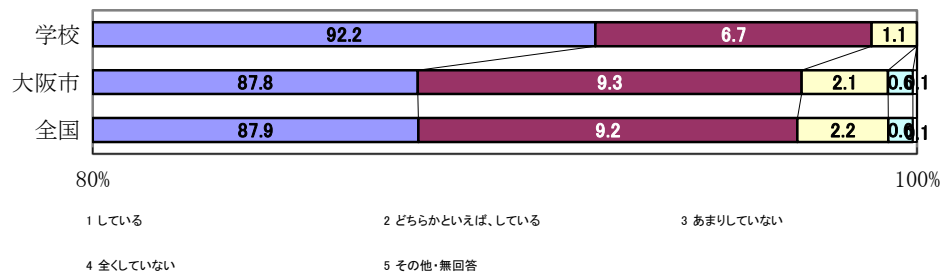
7

朝食を毎日食べていますか



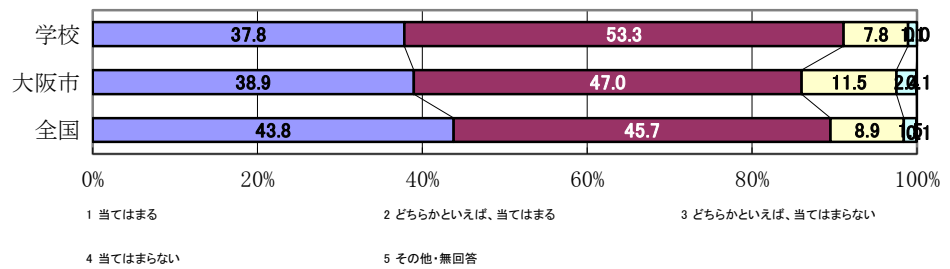
11

家で、学校の宿題をしていますか



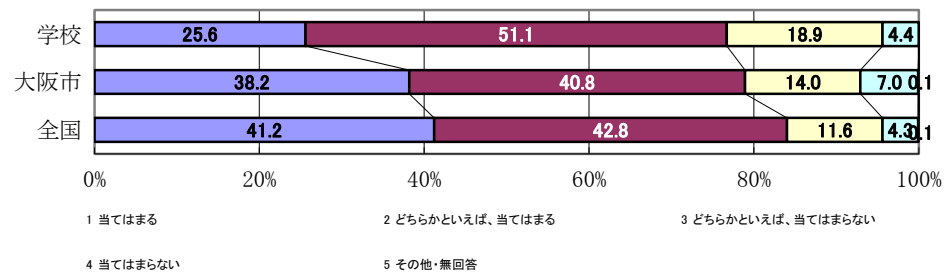
4

学校のきまりを守っていますか



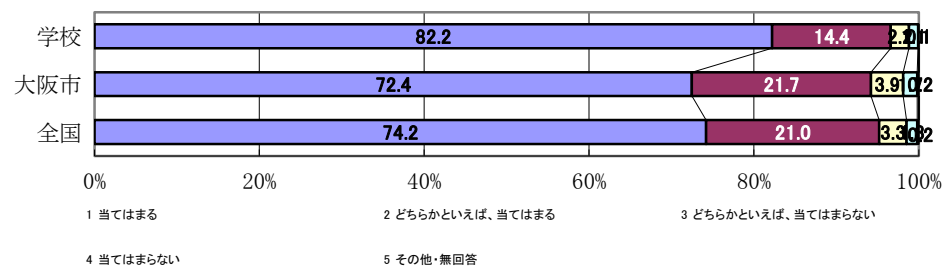
1

自分には、よいところがあると思いますか



6

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



児童質問紙より

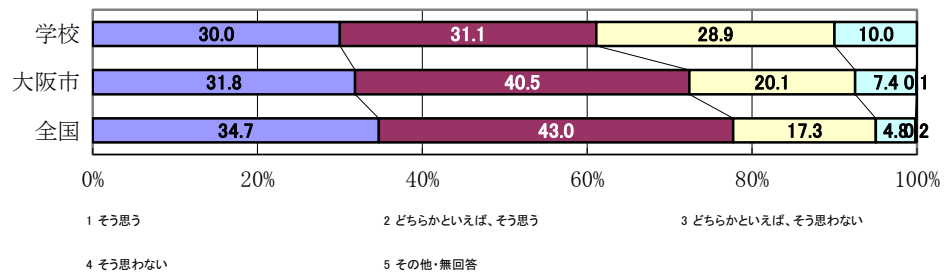
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

57

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



児童質問紙より

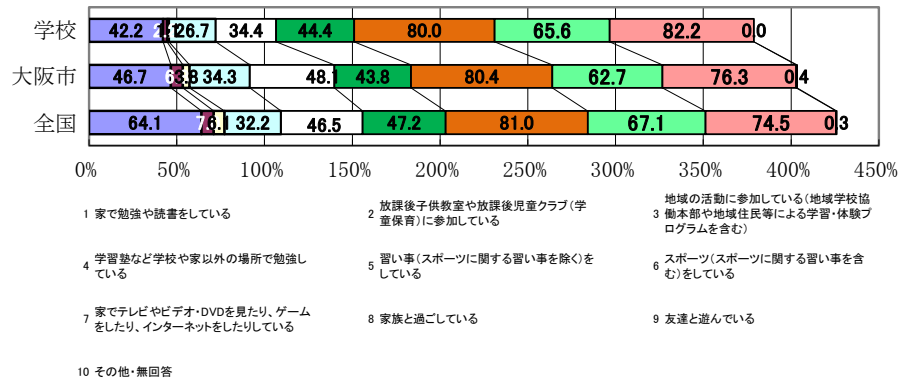
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号

質問事項

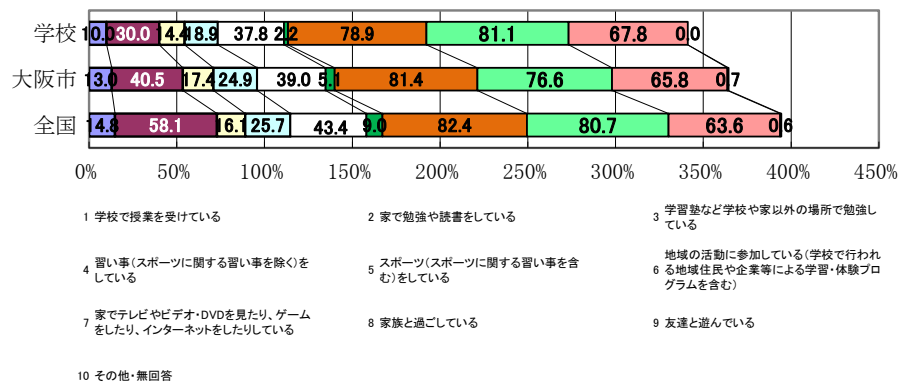
16

放課後に何をして過ごすことが多いですか



17

週末に何をして過ごすことが多いですか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

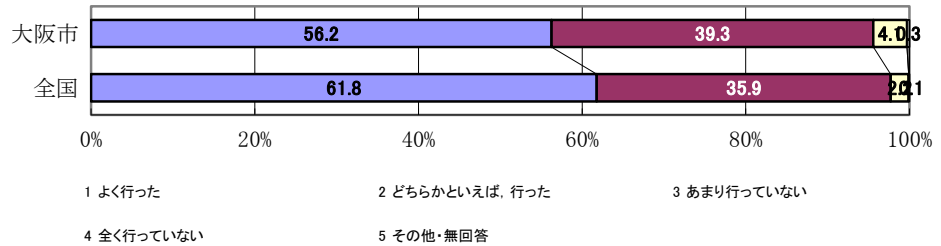
質問番号

質問事項

25

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか

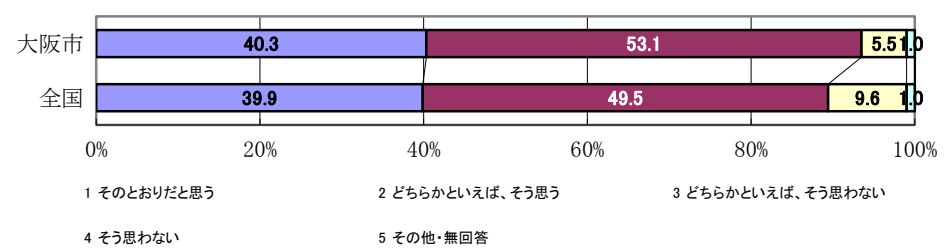
学校 「よく行った」を選択



12

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

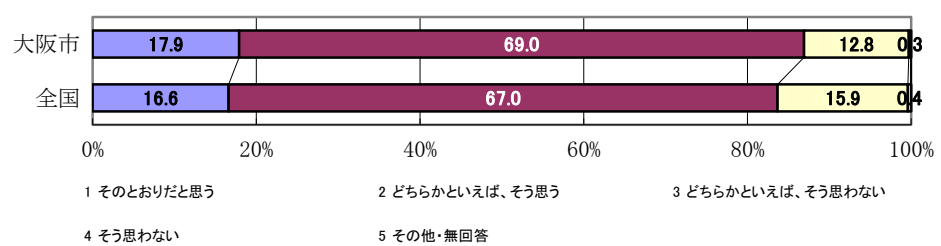
学校 「そのとおりだと思う」を選択



13

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか

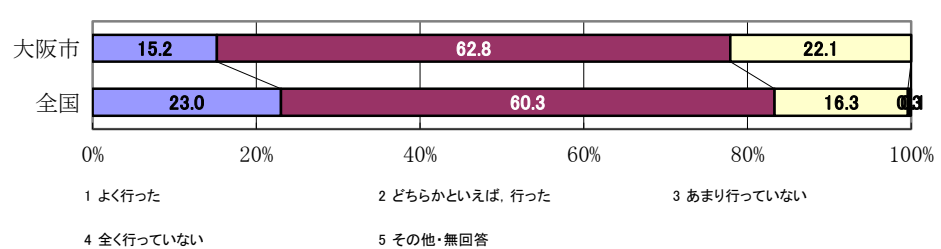
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



23

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

学校 「あまり行っていない」を選択



26

調査対象学年の児童に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

